

自分の感覚を疑え

国際会議通訳者

ながい まりこ
長井鞠子

通訳という職業は、毎日違うクライアントを相手に、違う場所で違うトピックを扱う。そのため、通訳に向いていないと思われる性格がある。それは、よそ見もせずに1つのことを深く探求し、じっくり諸要素を比較検討し、批判的・客観的にモノを見る人だ。

私はどうか。持って生まれたノーテンキな性格もあってか、子どものころからよくいえば天真爛漫、他人であれ自分であれ、人を批判的に見ることはせず、単純に人間も事象もすべてであるがままに受け入れ、疑うことを知らずに育った。そんな私が、あるがまま、自然体で行けばよいということでもないぞ、と気付かされた出来事があった。それは私が1年間、米国テキサス州ダラス市の高校に交換留学生として通っていた時のことである。

この交換留学は、1年間勉強した後、各国から留学中の高校生を集めて、米国のいくつかの州をバスで巡り、最後に首都ワシントンD.C.に行き、ホワイトハウスで大統領に面会するプログラムとなっていた。また、このバス旅行では途上の町で、地元

高校生と交流するイベントが企画されていた。

テキサスを出発しオクラホマやカンザスを過ぎ、やがてオハイオへ。そこでも地元高校生と交流する行事があり、とある高校の体育館に私は出向いた。バレーボール

に興じたり、

楽しく時を過ごしたりして
いるうちに、
何とも言えぬ
違和感を私は
覚えたのである。
何かがおかし
い。不釣り合
い、というか、あ
つてはならぬもの
があるように感
じたのだ。
その違和感



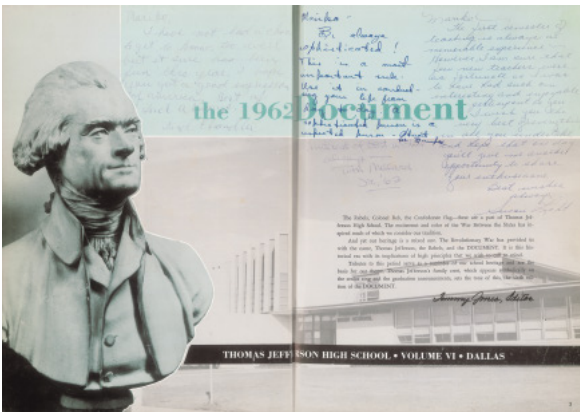
撮影：石黒健治



時の調べ
Essay

の正体とは何か。しばらくしてそれがわかった時の衝撃は今でも鮮明に覚えている。それは周りに当たり前のように黒人の高校生がいて、一緒に遊んでいたことに対する違和感だったのだ。

1960年代前半のケネディ大統領が象徴する明るい米国は、留学前の私でもイメージとして持っており、公民権運動の盛り上がりも知識としてもちろん知っていた。黒人差別・人種差別はいけないことだ、と。それなのに、1年にも満たない私のガラスでの経験によって、黒人が当然のように私がいる場にいたら感覚的におかしいと思ってしまうている。たとえそれが感覚的なものであったとしても、いや、感覚的であるが故に、私は激しく自分を恥じた。私が1年間ホームステイをしていたのは、アッパ



STANDING: Jan Louise Johnson, Linda Foster, Bill Gross, Carol Rea, Lynn Carroll, John Baird, Rick Barnds, Gower McManis, Bob Houston, James Erwin, Barbara Johnson, Carolyn Monson, Cynthia Bradley, Mariko O'Kuma, Tara Abbott, Karen Still, Shauna Velezi, Beth Lee, Kasee Bryant, Mary Lewelling, Barbara White, Kim Angell, Randi Kaye, Boettcher, Becky Burkhardt, Carolyn Blinn, Joe Lively.

ORCHESTRA AIDS MANY SCHOOL PROGRAMS



み、人の話を聞き、世の中を知らなければならぬ、と思ったのだ。だから、ここまで歳をとって天真爛漫というのもおかしいが、あるがままに日々の業務に流されている私だが、しっかりした軸だけは持ち続けたいものだ。

ミドルクラスの白人の家庭。学校でも少数のヒスパニック系を除けばほぼ全員白人生徒に取り囲まれ、1年間で黒人を見かけたのはほぼ皆無。たった1年という短い期間で、私の感覚は「黒人は周りにはいない存在」に完全に染まり、博愛、平等こそが人間の進歩だと思っていた知識や価値観は、いとも簡単に現実に取り替わられてしまったのだ。

「自分だって、アジア人という有色人種だ」という認識も持たず、うれし、楽しと日常に流されてしまふと、いとも簡単にアタマで思っている善や正義などは吹っ飛んでしまう。

略歴

サイマル・インターナショナル専属会議通訳者、同社顧問。仙台市生まれ。国際基督教大学卒業後、日本初の同時通訳エージェントとして創業間もないサイマル・インターナショナルの通訳者となる。サミット、G20の同時通訳、国内外要人随行など、年間200件もの重要案件を担うトップ通訳者。その活躍はNHK、プロフェッショナル仕事の流儀、等でも紹介される。著書に「伝える極意」(集英社新書)、「情熱とノイズが人を動かす」(朝日新聞出版)。

